合格体験記（一般入学試験）

生活科 学部 食物栄養科 学科 管理栄養士 専攻

出身高校名 新潟第一 高校

（1）同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

過去問や大活生活についての情報を定期的に提供して下さったことから入学後も生徒により添いサポートをしてくださる学校だという印象を受け受験校に選びました。

（2）一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕基礎固めを徹底して行いました。焦りもあったため、上のレベルの問題を解きたい気持ちはありましたが基本的な問題しばかり解いていました。
英語は文法書を1冊仕上げました。さらに、短い英文を使って文の骨格をつかみとる練習をしていました。英語はどの学校を受験するにも必要な科目であったので苦手科目と同じ位の時間を使っていました。

〔夏休み〕夏休み中の目標は大まかに前半と後半で分けて2つ決めていました。
前半は1学期で積み上げた基礎が本当に自分の力になっているかどうか確認することを目標に勉強しました。アウトプットが中心の学習でした。
後半は苦手分野の克服と応用問題にふれることを目標に勉強しました。
私の場合は生物の遺伝分野が苦手だったのでとにかく集中的に学習しました。

〔2学期～入試直前〕
夏休みがおわると毎週のように模試がありました。なので、9月～11月上旬の間は土曜日に模試を受験→日曜日～火曜日に模試のまちがい直し→水曜日～金曜日に模試の結果や手応えをふまえて問題演習という形をとっていました。
模試でまちがえた問題と似たような問題を参考書から探しだして、自分自身に解説できるようになるまでやりこみました。12月～1月はほとんどセンター演習を学校でしていました。間違えた問題は必ず「間違いノート」に集めて スキマ時間に何度も見て復習していました。赤本は11月頃から解いていました。

（3）この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビとの付き合い方、スランプとその対処法について。

11月～1月の中旬頃まで体調不良のため勉強が出来なくなってしまったことがありました。なかなか具合が良くならず焦って泣いてばかりでした。でも、学校の先生方の言葉や家族の支えで「このピンチをチャンスに変えてやる」と考えられるようになりました。
受験生のみなさんもスランプやピンチを迎えることがあるとおもいます。そんな時は周りの人の考え方、意見などを参考にしてみて下さい。ピンチやスランプを通じて改めて自分自身について考えなおすことができるようになり、更なる成長へつなげることができます。思い悩んだら自分の気持ちを素直に紙に書いてみるのもオススメです！

（4）受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

苦しくて辛い受験勉強ですが、合格通知を頂いたときにはその苦しさや辛さが飛んでいってしまう位に嬉しいです。入試本番で「あれだけ勉強したんだから必ずできる。私ならできる。」と思える位勉強すれば緊張はあまりしないと思います。
自分を支えて下さる方々への感謝の気持ちを忘れずに計画的な受験勉強を進めていって下さい。